

国際交流事業

JCBLは日本のブリッジプレイヤーを国際的に代表する唯一の国内組織で、世界ブリッジ連合及びアジアパシフィックブリッジ連合に加盟し、ブリッジの国際的活動に参加しています。

1. 世界ブリッジ連合

(WBF: World Bridge Federation)

WBFは1958年8月、ノルウェイのオスロでUSA、ヨーロッパ、南アメリカのブリッジ連盟が協議し、世界各国のブリッジ組織をつなぐ中心機関となり、知的スポーツとしてのコントラクトブリッジを普及すること、毎年世界選手権試合を開催し、必要な規則と規定を整備すること、及び人種、文化、宗教が異なる民族間の相互理解を深めることを目的として設立されました。

(1) 本部及び事務局

Maison du Sport International
54 av. de Rhodanie, 1007 Lausanne
Switzerland
Tel: (41) 21-544-7218

(2) 事業

WBFはコントラクトブリッジの普及・発展のための活動として、以下の事業を行っています。

- 1) コントラクトブリッジ・ゲームの管理、育成、奨励
- 2) コントラクトブリッジ国際規則の運用
- 3) 各種の国際試合(ワールドブリッジゲームズ、ワールドブリッジシリーズ、世界ブリッジ選手権試合)の管理と奨励
- 4) その他理事会が承認した不定期の競技会の管理

(3) 会員

WBFは各国ブリッジ組織を会員とし、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、中近東アジア、中央アメリカカリブ海、パシフィックアジア、オセアニア、アフリカの8ゾーンがあり、日本はゾーン6(パシフィ

ックアジアゾーン)に属しています。WBFは各ゾーン代表16名(ヨーロッパ、北アメリカは5名、他ゾーン各1名)と会長で構成される評議委員会で運営されています。

加盟国(地域)は2017年現在112です。

(WBF official website より)

(4) 役員(2018年3月現在)

会長 Gianarrigo Rona(イタリア)
副会長 John Wignall(ニュージーランド)
" Alvin Levy(米国)
" Yves Aubrey(フランス)
" Patrick Choy(シンガポール)
" Mazhar Jafri(パキスタン)
" Radoslaw Kielbasinski(ポーランド)
財務 Mark de Pauw(ベルギー)
名誉会長 José Damiani(フランス)

2. アジアパシフィックブリッジ連合

(APBF: Asia Pacific Bridge Federation)

1957年、日本、フィリピン、台湾、香港の4ヶ国の発案で極東ブリッジ連合(FEBF)を結成し、1958年WBF発足と同時に加盟しました。1995年にパシフィックアジアブリッジ連合(PABF)と名称変更、2010年までWBFのゾーン6(Pacific Asia)とゾーン7(South Pacific)の国/地域で構成されていました。2010年にゾーン4(Asia and Middle East)の加盟国が加わって、現在の名称APBFに変更になりました。

(1) 事務局

東京都新宿区四谷1丁目13番地
虎ノ門実業会館四谷ビル
(公社)日本コントラクトブリッジ連盟内

(2) 事業

アジアパシフィック・ブリッジ選手権試合、その他ゾーン6内の国際試合の管理と奨励を行っています。

(3) 加盟国

(WBFゾーン6) 日本、中国、チャイナ香港、チャイナマカオ、チャイニーズタ

イペイ、インドネシア、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、シンガポール、タイ、東ティモール

(WBFゾーン7) オーストラリア、フランス領ポリネシア、ニューカレドニア、ニュージーランド、

(WBFゾーン4) バーレーン、バングラデッシュ、インド、ヨルダン、クウェート、パキスタン、パレスチナ、カタール、サウジアラビア、スリランカ、シリア、UAE

(4) 役員(2017年3月現在)

会長 Esther Sophonpanich(タイ)

副会長 Chen Zelan(中国)

〃 Ashok Kumar Goel(インド)

〃 Michael Bambang Hartono
(インドネシア)

事務総長 吉田 正(日本)

〃 M. Azwerul Haque(パキスタン)

財務 Anthony Ching(香港)

相談役 中谷 忠義(日本)

WBF代表

Patrick Choy(シンガポール)

Chen Zelan(中国)

Mazhar Jafri(パキスタン)

3. 国際試合

(1) ワールドブリッジゲームズ

(旧：世界チームオリンピック)

WBF加盟国がオープン及びウィメン、シニア、ミクスト各1チームを参加させる権利があり、4年に1回、うるう年に開催されるチーム選手権試合です。

1960年にトリノで第1回を開催し、以後4年に1回開催されています。日本は第4回マイアミ大会(1972年)にオープンチームが、第6回ファルケンブルグ大会(1980年)にウィメンチームが初参加しています。第11回マーストリヒト大会(2000年)からシニア部門が加わり、日本は第12回イスタンブール大会(2004年)に初参加しています。

2004年の第12回大会にはオープン72

ヶ国、ウィメン42ヶ国、シニア29ヶ国が参加しました。日本はオープンチームが予選Dグループ18チーム中2位と健闘し、初めて決勝ラウンドに進出し、ベスト8に勝ち残りました。

2008年は北京で開催された第1回ワールドマインドスポーツゲームズブリッジ、囲碁、チェス、ドラフツ(チェッカー)、シャンチー(中国将棋)の5種目の選手権試合と併せての開催となり、これを機に世界チームオリンピックはワールドブリッジゲームズと名称変更されました。この大会では日本シニアチームが初優勝しました。

2012年も前回同様、第2回ワールドマインドスポーツゲームズの競技種目としてリール(フランス)で開催されました。

2016年はワールドマインドスポーツゲームズではなく、ブリッジ単独で第15回ワールドブリッジゲームズとして開催され、ミクストチームが正式種目として加わりました。日本チームはオープンとミクストチームが予選通過し、ベスト16に残りましたが、惜しくもKOラウンドで敗退しました。

(2) ワールドブリッジシリーズ

前身は1962年にカンヌで開催されたペアオリンピックで、オープン、ウィメン、ミクストペアの選手権を競う大会でした。

当初はペア戦がメインイベントでしたが、元会長故ローゼンブルム氏を記念したローゼンブルム杯に人気が集まり、ペア選手権とチーム選手権が両立する大会になったため、この大会を「世界ブリッジ選手権試合」と呼んでいましたが、2010年から「ワールドブリッジシリーズ」と名称を変更しました。国/地域に関わりない(トランスナショナル)ペア/チームで参加できる大会です。

(3) バミューダボウル/ベニスカップ/ドルシーシニアトロフィー

世界8ゾーン(日本はゾーン6に属します)の代表国と開催国代表のオープン、ウィメン、シニア各22チームで予選を行い、

以後準々決勝、準決勝、決勝と勝ち抜き戦形式で選手権試合を競います。

バミューダボウルはオープンチームの、ベニスカップはウィメンチームの、ドルシーシニアトロフィーはシニアチームの優勝に対し与えられています。

世界選手権としては最も歴史のある大会で、1950年に第1回大会がバミューダで開催され、当初は毎年開催されていましたがオリンピックの関係で隔年開催になりました。1974年にベニスカップ、2001年にドルシーシニアトロフィーが追加されました。

1999年大会はバミューダボウル開催50周年を記念して、2000年1月にバミューダで開催されました。

1991年秋に横浜で開催され、日本も開催国として初参加しました。また、APBF(旧 FEBF/PABF)は1966年から APBF 選手権上位チームをゾーン6代表として派遣しています。日本は1995年(北京)にウィメンチーム、2001年(パリ)にオープン、ウィメンチーム、2003年(モンテカルロ)にシニアチーム、2005年(エストリル)以降、2007年(上海)、2009年(サンパウロ)、2011年(フェルトホーフエン)、2013年(パリ)、2015年(チェンナイ/インド)と連続してオープン、ウィメン、シニアチームがゾーン6代表として出場しました。2017年はシニアチームが出場しています。

2019年からミクストチーム選手権が併催されます。

(4) 世界ユースチーム選手権

世界ユースオープン選手権

ユースチーム選手権は若手の養成を目的に参加資格を26歳未満に限定し、1987年6月アムステルダムで第1回大会を開催した競技会です。以後隔年に開催されています。

ユースオープン選手権は、2009年に第1回大会がワールドユースコンGRESSとして、イスタンブールで開催され、(27ヶ国/地域40チーム参加)日本ペアとチェコペアの

混成チームが優勝し、日本のユース選手で初めての世界チャンピオンが誕生しました。

(5) 世界同時大会

世界中が同じハンドを同時にプレイする、という発想から始められた大会で、上記のような選ばれた人だけの大会ではなく誰でも参加できます。1986年に第1回が開催され約6万人、1987年は約7万人、1988年、1989年は約8万人、1990年、1991年は約9万人参加し、1992年には遂に10万人を突破しました。

1999年はWBFの都合により中止されましたが、2000年に再開、インターネットを使ってスコア集計が行われています。

(6) アジアパシフィック (APBF) ・ブリッジ選手権

1957年の第1回マニラ大会以来、各国持ち回りで毎年*開催しています。

(*注：1988年からはワールドブリッジゲームズの年は APBF ブリッジコンGRESSを開催)

現在では奇数年に開催する選手権試合は、前記のバミューダボウル、ベニスカップ、ドルシーシニアトロフィーのゾーン代表決定戦になっています。同様のゾーン選手権は世界各ゾーンで開催されています。

(*注：上記コンGRESSが開催されない偶数年に、アジアカップが開催される場合があります。)

当初はオープンチーム選手権試合だけを開催していましたが、1959年からオープンペア選手権、1963年からレディスチーム選手権、1989年からユースチーム選手権、2003年からシニアチーム選手権が開催されています。また、世界選手権開催にあわせ、2019年からミクストチーム選手権が開催されます。

これまで日本では1958年(東京)、1964年(東京)、1979年(東京)、1998年(神戸)で開催されました。

日本チームの優勝歴は次の通りです。

- ・オープンチーム：第28回(1985, シドニー)、第41回(2002, バンコク)、第49

回 (2013, 香港)、第 50 回 (2015, バン
コク)

- ・ウィメンチーム：第 30 回 (1987, 上海)、
第 47 回 (2010, ハミルトン)、第 49 回
(2013, 香港)
- ・ユースチーム：第 43 回 (2005, ソウル)
- ・シニアチーム：第 42 回 (2003, マニラ)、
第 43 回 (2005, ソウル)

(7) APBF ブリッジコンGRESS

うるう年のワールドブリッジゲームズの
年に開催される大会です。1 カ国から複数
チームが参加できる親善色の強い大会です。
2012 年には APBF 加盟国だけでなく、全
WBF 加盟国のプレイヤーが参加できるオ
ープンな大会として福岡で開催されました。

(8) アジア競技大会

日本コントラクトブリッジ連盟は、2017
年 11 月 15 日に日本オリンピック委員会の
準加盟団体として承認されました。(認定は
2019 年 3 月 31 日まで)

アジア競技大会は、アジア・オリンピック
評議会(OCA)が主催するアジア地域を対
象にした“アジア版オリンピック”で、コ
ントラクトブリッジは 2018 年のジャカル
タ大会の正式種目に採用され、日本から 2
チームが参加を予定しています。

(9) 国際公式試合の開催順序

ワールドブリッジゲームズはうるう年、
ワールドブリッジシリーズはうるう年以外
の偶数年、バミューダボウル、ベニスカッ
プは奇数年に開催しています。

2018 年

第 3 回アジアカップ(インド、ゴア)

第 15 回ワールドブリッジシリーズ(USA
オランダ)

第 17 回世界ユースチーム選手権(中国、
蘇州)

2019 年

第 52 回 APBF ブリッジ選手権

第 44 回バミューダボウル・第 22 回ベニ
スカップ・第 10 回ドルシーシニアトロ
フィー・第 1 回ミクストチーム選手権
(オランダ)

第 6 回世界ユースオープン選手権

2020 年

第 9 回 APBF ブリッジコンGRESS

第 16 回ワールドブリッジゲームズ

第 18 回世界ユースチーム選手権

2021 年

第 53 回 APBF ブリッジ選手権

第 45 回バミューダボウル・第 23 回ベニ
スカップ・第 11 回ドルシーシニアトロ

フィー・第 2 回ミクストチーム選手権

第 7 回世界ユースオープン選手権

以下同順序

(10) その他の国際試合

上記の公式試合の他に各国が開催するゾ
ーン公認の国際試合やスポンサー付きの冠
大会が世界各地で多数開催されています。